

JAC AWARD を受賞して

私はプロダクションマネージャーという仕事は積極的な定義が困難な職種だと思っています。一つの映像をつくることは一つの世界をつくることであり、そこには実世界に存在するのと同じだけの職域があります。何をやればいい、というあらかじめ用意された答えはありません。矛盾に満ちた不完全な世界を少しでも魅惑的な世界に変えるため、PM は時に法律家としてルールをつくり、政治家として人々を統治し、弁護士として弱者を庇いつつ、職人として農具をつくり、農家として荒地を耕し、商人として異邦人と交易し、時に戦士として敵地で戦わなければならないのです。目の前に現れた難題に対して、世界との関係をその都度自ら選び取らなければならないのです。職域を名指ししようとする度、その境界が遊動し消失する地平に、PM という仕事の本質はあります。

PM は作品の「予算・納期・品質」を守るのが仕事であるという、よく知られた辞書的な定義だけを素朴に信じている方がもしいるのであれば、この賞に応募する必要はまったくないでしょう。あなたは所属する会社が規定する利益率と工程表に自身の仕事の成果を照らし合わせるだけでよく、それ以上何も求めるべきではありません。

仮に、PM の賞というものが存在できるとしたら、それは、絶えずその磁場を変化させる漠とした荒野に踏み入り、狂った方位磁針を片手に狼狽えながら歩みを進める冒険家にこそ与えられるべきものです。あるいは、踏み入った荒野で発見した未知の暗号を解読し、親しみある言語に翻訳しようと努める計算機科学者に与えられるべきです。

その意味で、JAC AWARD は植村直己冒険賞のようなものであり、あるいはチューリング賞のようなものだと思います。

私がこの賞を受賞したのも、接岸し難い絶壁の離島に独自の航路で接近し、その全景を垣間見たこと、その姿を自らの言葉で本土に伝えようと努めたことが評価されたものと認識しています。受賞したことで何か変化があったかと聞かれれば、私自身には特段何も変化はありません。変わったのは私の成果を認識した世界の方です。それだけで十分です。

しかし、私が見たものはPM という複雑な地形を擁する島の一面に過ぎないのです。島の裏側に接近するための新たな航路や、島を鳥瞰するための空路はいまだ無数に残されているはずです。次の応募者にはその発見を期待しています。

東北新社 Production2

三木章太郎